「君の名は？」この世で最も響きの良い言葉

人にとってこの世で最も響きの良い言葉は何だと思いますか？

それはその人の名前です。

名著「人を動かす」で有名なデール・カーネギー氏の格言に「名前と言うのは、その人にとって最も響きが良く、大切な言葉である」と言う格言がございます。

言わずもがな、名前と言うのは、何億と居る人の中から、その人の存在だけを指し示す言葉であり、名前で呼ばれる事を「認められる」と表現する事があるように、存在の「承認」と言う誰しもが持つ承認欲求を満たす言葉でもあるのではないでしょうか？

日米と生活してきて気が付いた事の一つとして、名前を呼ばれる回数の違いと言うのがありました。

アメリカでは、名前を呼ばれる事が多く、ビジネスともなるとさらに回数が増えるのを実感しました。それは、恐らく名前を呼ぶ事が相手の信頼を勝ち得る一つの方法であると理解している人が多いからでしょう。

しかし、日本ではアメリカと比べると名前で呼ばれる機会が少ないと感じます。どうやら、文化的に日本では相手の名前を呼ぶのが失礼にあたると言う言霊文化があるようで、言葉には魂が入っており、名前にも同様に魂が宿っており、それを口にすると相手の生命を脅かすと言う良く分からない論理があるようですが、情緒的な良さもたまには良いですね。

と言う事で文化的な名残により、名前を呼ぶ機会の数の少なさが現代にも繋がっているのでしょうか？それとも、個人主義と集団主義文化の差で、個人と言う存在を認識する事が少ないからこそ、名前で呼ぶ事が少なくなるのか？それとも、「名前　呼ぶ　苦手」と検索するとわんさかサイトが出てくるように、単に恥ずかしいだけなのか？

恐らく、答えは一つではなくて、上記に述べたようなあらゆる要素が絡み合って、人の名前を呼ぶ事が少なくなっているのでしょう。

しかし、日本人である前に日本人とは一人の人間であり、多くの人は自分の名を呼んでもらいたいと思っているはずです。だからこそ、あなた自身のこしょばゆい気持ちは封印して、初対面なら真っ先に「君の名は？」と聞き出して、あらゆる場面でその人の名前を呼ぶ事で、人間関係をより円滑に出来るかもしれませんね。